

(様式1)

## 「令和元年度ふくしま『学びのスタンダード』推進事業」推進地域の取組

パイロット校名	いわき市立磐崎中学校、いわき市立磐崎小学校
推進協力校名	いわき市立藤原小学校

確かな学力をつけるための「主体的・対話的で深い学び」の工夫をめざして

～基礎基本の定着と学習習慣の確立を通し、

自ら考え表現する力の向上を図る学習指導を目指して～ (パイロット校I)

～豊かなかかわりを通して、共に高め合う子どもの育成～ (パイロット校II)

### 1 推進地域における「授業スタンダード」の活用について

昨年度までの実践をもとに、パイロット校Iでは深い学びのサイクルを生み出すための三つの重点事項について、パイロット校IIでは発達段階に応じた伝え合いの工夫についてに重点を置き、「タテ持ち」や「教科担任制」を取り入れながら3年目の実践に取り組んだ。

### 2 パイロット校の取組内容

(1) 数学科における「タテ持ち」、算数科・国語科における「教科担任制」について

パイロット校Iでは、4名の教師による「タテ持ち」を実施し、指導力の向上と系統性を意識した授業の実践を行った。パイロット校IIでは「TTによる教科担任制」や「交換授業による教科担任制」を実施し、専門性を生かした授業の実践に取り組んだ。

〈パイロット校I 「タテ持ち」(数学科)〉

	1組	2組	3組	4組	5組
1学年	C・D	A・D	B・D	A・D	
2学年	A・D	C・D	B・D	C・D	
3学年	C	B	B	A	B

教諭A (1年担任) 教諭B (3年副担任) 講師C (2年副担) 講師D (2年副担)

〈パイロット校II 「TTによる教科担任制」(算数)「交換授業による教科担任制」(国語)〉

教科	5年1組担任	5年2組担任	5年3組担任	推進教師
算数	5時間(T2)	5時間(T2)	5時間(T2)	15時間(T1)
国語	1時間(T2)	1時間(T2)	12時間(T1)	
社会	6時間(5-1・5-3)	3時間(5-2)		
音楽	1.5時間(5-1)	3時間(5-2・5-3)		
図工	1.5時間(5-1)	3時間(5-2・5-3)		

算数は通年、国語は9月と11月に実施。宿題・漢字指導は担任が行った。

(2) 授業スタンダードの活用の具体的な取組について

○ 重点実践事項の設定 (パイロット校Ⅰ)

- ①授業改善の手がかりとして、「授業スタンダード」をもとに重点実践事項を設定し、授業に意識的に取り入れるとともに、研究授業の事後研修の視点として活用した。

重点 実践 事項	A 生徒が興味を持ち、意欲的に取り組む課題の設定
	B 試行錯誤し、さまざまな意見を生み出す学び合いの場面の設定
	C 次の学びにつながる振り返りの場面の設定

- ②生徒および職員にアンケートを実施し、変容や課題の把握を行った。

重点実践項目に関連する部分で、上昇が見られた。

生徒「授業に関するアンケート」から抜粋 (3学年 前年度との比較)

内容	H30.6月	H30.12月	R1.6月	R1.12月
新しい単元に入るとき、学習の中で考えてみたいことや、解いてみたいと思うことがある。[課題の設定]	2.89	2.96	3.07	3.03
説明したり、書いたりするときには、聞き手、読み手に伝わるよう工夫している。[学び合いの場面の設定]	2.93	3.07	3.17	3.23
授業の最後に、今日学習したことを振り返り、次の学習に役立てようとする。[振り返りの場面の設定]	3.12	3.11	3.36	3.40

○ 「授業スタンダード」を活用した授業研究の推進 (パイロット校Ⅱ)

- ①「低学年」「中学年」「高学年」でそれぞれブロックテーマを設定し、授業研究に取り組んだ。(国語科、算数科)

[低学年]「自分の考えをもち、伝えたり聞いたりすることができる子ども」  
[中学年]「自分の考えを伝え合い、自分の学びを豊かにしようとする子ども」  
[高学年]「互いの良さを認め合いながら、  
よりよい考えに高め、新たな学びに向かう子ども」

- ②「授業スタンダードチェックシート」を活用し、授業の振り返りと校内研修の充実を図った。

- ③「児童意識調査」を実施し、課題の把握と授業実践への活用を図った。

「めあてや課題が分かっていますか」

「友達と話し合うとよい考えをもつことができますか」

「授業の後に、新しい疑問やもっとやってみたいことがありますか」

各項目で昨年度よりも向上が見られた。

- ④知識・技能面の基礎の定着を図るための、「いわさき漢字計算大会」を実施した。

(様式1)

○ パイロット校Ⅰ、Ⅱ、推進協力校合同の取組

①「ステップアップテスト」の実施

小中で連携して基礎力定着テストに継続的に取り組んだ。

(磐崎小・藤原小は高学年が共通の問題を使用。磐崎中は全学年共通の問題。

練習問題に取り組んだ1週間後にテストを行った。)

②小中連携による授業交流

研究授業、要請訪問の日程を共有し、授業の公開と研修を行った。

### 3 推進協力校の取組内容

○推進協力校 いわき市立藤原小学校の取組

パイロット校(磐崎中・磐崎小)と推進協力校(藤原小)で共通理解を図れるよう、研修主任による研究協議会を開くなど、連携して研究を進めてきた。

(1) 指導過程の中に「授業スタンダード」との関連を太字で盛り込み、意識化を図った。

(2) 「チェックシート」を使用した授業の振り返りを行った。

(3) 「授業スタンダード」をもとにした授業のポイントや、効果的な言葉かけなどの資料を作成し、授業改善に活用した。

### 4 3年間の取組から見えた成果と課題

○…成果 ●…課題

(1) 「教科担任制」について

○TTによる教科担任制では、担任を持たない専科教師が教材研究に専念できた。

○同じ時間の授業を複数回行うことで、教材研究が深まった。

○実施した学年では、NRTの偏差値の向上が見られた。

●時間割の調整が非常に難しかった。

●学級担任をしながらの教科担任制は負担が大きい。

(2) 「タテ持ち」授業について

○教材研究や指導方法に関する情報交換が活発に行われ、指導力の向上につながった。

○3年間の系統性を意識した授業を行うことができた。

●教科の打ち合わせの時間の確保が難しかった。

(3) 「授業スタンダード」の実践について

○「授業スタンダード」の話し方や問い返しの例が授業改善に役立った。

○継続した取り組みにより、生徒の意欲の高まりや伝え合いの技術の向上が見られた。

●教科に応じたさらなる活用のしかたについて検討する必要がある。